

特集 ■ 障害者スポーツ

今月号では障害者スポーツを取り上げ、その魅力を多角的に紹介するべく、各方面の多くの方に執筆をお願いしました。障害者スポーツを支援すること、周囲の人に紹介すること、観て楽しむこと、など、たくさんの可能性がわれわれの前に拡がっています。

身体障害者スポーツの概要 (神埜聖治氏ら, 827 頁)

障害者スポーツには、① リハビリテーションスポーツ、② 生涯スポーツ、③ 競技スポーツがある。医学的にはリハビリテーション上の貢献はもとより、身体障害者に多い生活習慣病の対策として、また運動による免疫学的利得なども注目されている。一方でスポーツ障害の危険もあり、障害者にスポーツを勧める者は障害者の生理機能を知り、事故発生予防に努めなくてはならない。

知的障害のある人とスポーツ (後藤邦夫氏, 831 頁)

今日、国際的な大会には、国際知的障害者スポーツ連盟 (INAS-FID) の流れを汲むものと、スペシャルオリンピックスの流れを汲むものの2つがあり、わが国でもゆうあいピック全国大会を頂点に各都道府県で大会が行われている。しかし、運動の遅れに対する学校教育での専門的対応の不足、放課後活動の不足、そして卒業後の劣悪な環境など、知的障害のある人のスポーツライフの形成においては問題が山積しており、積極的な振興策が必要である。

地域における障害者スポーツの普及 (新納昭洋氏ら, 834 頁)

地域の公立障害者スポーツ施設の問題点として、絶対数の不足によるアクセスの不便さ、指導員不足、情報発信の不足が挙げられる。今後は指定管理者制度の導入、あるいは障害者専門施設から健常者も利用する施設への移行が多くなるであろう。地域ネットワークの形成やプログラムの作成、情報発信など、ソフト面での発達が今までも増して重要になってくる。

スポーツをサポートする義肢装具と企業 (川村 慶氏, 838 頁)

アスリートが「勝利」、「記録」の最高潮ゾーンを目指すために快適ゾーンから脱出するように、スポーツ用装具と企業も、安全領域から可能性領域の拡大への挑戦を行っている。スポーツ用装具には、強靱な耐久性、複雑な動作に対応した高度な機能、力のロスがない接合部分の適合が要求される。一方で、オスカー・ピストリウスに対する世界陸連の見解や競泳水着問題など、スポーツにおける道具のルールにも今後は注目が必要である。

障害者スポーツとジャーナリズム (佐々木延江氏, 842 頁)

障害者スポーツの取り扱い、かつての「リハビリテーションの延長」、「障害者の社会参加」から、「観るスポーツ」、「競技性の高いスポーツ」としての価値観の変換が行われつつある。しかし、障害者の理解が進んだか、情報が障害のない人の視点でのみ編まれていないか、などの反省は必要である。また、障害者スポーツの夢を担うトップスポーツの育成も他国に比べ不十分で、ジャーナリズムが果たすべきことは多い。

各種スポーツの魅力紹介—障害者ゴルフ (佐藤成定氏, 844 頁)

車いすゴルフの技術自体は、常識的な克己努力で OK である。しかし「ゴルフ場で使用可能な車いすゴルフカートがあるか」、「障害者にプレーをさせてくれるゴルフ場があるか」という問題があり、そこに関係者の努力が必要になる。車いすを使用する障害者以外でも、切断者の場合には、適合する義肢があれば練習努力は健常者と同様である。障害者のなかでも人数の多い片麻痺者に対しても、「日本片マヒ障害者オープンゴルフ選手権」が行われている。

各種スポーツの魅力紹介—視覚障害者ボウリング (佐藤紀子氏, 846 頁)

ボウリングはプレイ環境が常に一定で、身体的位置や動きの知覚などが重要な役割を果たすクローズドスキルのスポーツであり、視覚障害者に適している。ルールもシンプルで未経験者でも理解しやすく、ガイドレールを設置するだけで暗眼者とゲームを楽しむこともできる。競技としては見え方の程度により3つのクラスがあり、世界選手権が行われている。

各種スポーツの魅力紹介—バリアフリーダイビング (山田眞佐喜氏, 848 頁)

必要な器材の使用スキルや知識、そして運動機能を周囲が介助・サポートすることでバリアフリーダイビングは成立する。できないことはできなくてよいが、「介助によってそのスキルをマスターする練習」は必要である。安全のために6レベルの指導員区分、3レベルのサポートダイバー区分、障害程度に応じた指導スタッフ配置、などが定められている。

各種スポーツの魅力紹介—車いす陸上 (廣道 純氏, 851 頁)——

筆者にとって、車いす陸上は「風を切る楽しさ」に始まり、いまや健常者であったとき以上の生活、すなわち、世界のトップアスリートと肩を並べて戦い、英語を習得し、プロとして好きなことを仕事にするという生活に至っている。事故などの発生後、「歩けない」ではなく、「車いすで走れる、速く走れる」という選択肢を、医療関係者はできるだけ早く呈示するべきである。

各種障害者スポーツ関連情報・種目情報一覧 (中森邦男氏, 853 頁)——

41 種目 (分野) の障害者スポーツの貴重な一覧解説表である。一つひとつの競技のルール、競技大会開催に多くの関係者の努力がしのばれる。